

第36回全日本実業柔道個人選手権大会・報告書

第36回全日本実業柔道個人選手権大会は8月26日～27日の両日、兵庫県尼崎市記念公園総合体育館で開催された。男子8種目（7体重別と22歳未満の部）576人、女子7種目137人の計713人、昨年よりも92人増え過去最多のエントリーとなった。このため試合場を6試合場に変更し、熱戦が展開された。



開会式であいさつする米田圭佑 大会副委員長

初日の開会式では米田圭佑大会副委員長が挨拶、大会名誉顧問の白井文尼崎市長が歓迎の挨拶の後、試合が行われた。

男子66kg級は鳥居智男5段（了徳寺学園）が旧65kg級と合わせて7年ぶり4度目の優勝を遂げた。60kg級は小川武志4段（了徳寺学園）が2年連続3度目。73kg級は北川勝広3段（アルゼ）、81kg級は谷口徹3段（旭化成）、22歳未満は松岡晃史2段（十全会・十全病院）が制した。女子57kg級は昨年のカイロ世界選手権大会代表だった宮本樹理2段（了徳寺学園）が、52kg級は吉村依子3段（セコム）が初優勝した。48kg級は宝真由美2段（コマツ）が2年連続2度目の優勝を飾った。

最終日、男子90kg級は数々の国際大会で活躍している矢崎雄大4段（了徳寺学園）が本大会初出場・初優勝を飾った。100kg超級の片渕慎弥4段（了徳寺学園）も社会人デビュー戦を圧倒的な強さで初優勝し、100kg級では家泉崇3段（旭化成）が実力派ぞろいの階級を制した。女子78kg超級の馬籠恵子2段（ほのぼの会）、70kg級七條芳美3段（了徳寺学園）、63kg級徳久瞳2段（三井住友海上火災保険）がいずれも初優勝。



開会式で歓迎のあいさつをする白井文尼崎市長



全国各地から出場した選手が集う開会式



選手宣誓する松山選手（旭化成）

男子100kg超級 ”新人片瀧、地元ちびっ子の声援を背に堂々の優勝“

新日本製鐵・広畑の落合は、順調に勝ち進み、準決勝戦で、巨体を生かしオール一本勝で勝ち上がった昨年王者旭化成松山と対戦。序盤、落合は奥襟を持って圧迫を加える松山に防戦一方であったが、開始1分に指導1を受けた後は、負けじと組み合い、1分27秒右大外刈から右支釣込足への連絡技一本で、一昨年に続いて決勝進出を果たす。一方の日本中央競馬会の片瀧は、巨体に似合わない俊敏な動きで徐々に本領を發揮し、平成管財市ノ渡等強豪を薙ぎ倒して準決勝戦へ。これも全試合一本勝の旭化成大鋸との一戦は、片瀧が盛んに内股、小外刈で大鋸の巨体を揺さぶった後、2分45分に場外付近にて小外刈で技ありを奪うと、終盤をうまく捌いて大鋸を降す。片瀧堂々の決勝戦進出。

決勝戦は、共に組合わず34秒に両者指導1を受けるも、中盤過ぎまで引手争いに終始。ようやく3分15秒、片瀧が組際の小外掛で効果を奪う。そして残り15秒、片瀧、逆襲に出る落合の一瞬の隙を衝いて、場外近く内股で跳ね上げると、落合は大きく宙を舞ってその場に落下。地元大阪出身の新人片瀧、初優勝を豪快な一本勝で飾る。



優勝した片瀧選手
(日本中央競馬会)

片瀧の話

6月の全日本実業団体対抗(札幌市)で第二部に落ちたのは非常に悔しかった。社会人デビューのプレッシャーはあったが、この大会は絶対優勝しようと気合いを入れてきた。100%の力を出し切れたと思う。決勝では効果のあと守りに入りそうになったが、攻め続けられたことは大きな収穫。講道館杯でも優勝したい。

【成績】

- 優勝 片瀧慎弥 (日本中央競馬会)
- 準優勝 落合幸治 (新日本製鐵・広畑)
- 第3位 松山 毅 (旭化成)
- 第3位 大鋸 新 (旭化成)

▽準々決勝

- 松山 小外掛 森 (九州電力)
- 落合 優勢勝 保立 (テルセ)
- 大鋸 掬い投 河野 (旭化成)
- 片瀧 優勢勝 木村 (旭化成)

▽準決勝

- 落合 支釣込足 松山
- 片瀧 優勢勝 大鋸

▽決勝

- 片瀧 内股 落合

男子100kg級 ”尻上がりに調子を上げた家泉、準々決勝戦から一本勝で悲願達成“

初戦不戦勝の後、2試合を延長戦の末、ようやく死地を脱して勝ち上がった来た家泉は、上位入賞常連のダイコロ大金との準決勝戦。開始早々、家泉は組み手争いから大金のバランスが崩れた所を、脇をすくいながら体を浴びせて技ありを奪い、すかさず寝技。横四方固から崩上四方固へ移行し合せ技一本。勝負はあっけなく決まる。

一方、第2シード選手近野も苦勞して勝ち進み、準決勝戦で順当に勝ち上がった総合警備保障大川と交える。ケンカ組手の両者は、左右の内股で攻め合う中、近野が2分40秒出足払で効果を奪う。その後、3分20秒両者指導1を受けながらも、近野が先制のポイントを守り切って決勝戦進出を果たす。

決勝戦は、近野が開始早々23秒に家泉の大内刈を返し効果を奪うが、その後は、家泉が近野得意の組手に組ませず、徐々に試合の主導権を握る。そして迎えた2分1秒、家泉は右片襟のまま大外刈で鋭く刈込み、辛うじて堪える近野の足に左小足を掛けて体を浴びせ、最後はダメを押すように畳に叩きつけると、主審は一本を宣告。家泉、悲願の初優勝成る。



優勝した家泉選手
(旭化成)

家泉の話

03、04年にケガで練習が出来ない日々を過ごした。今日は柔道に見切りをつける気持ちで臨んだ。優勝できて本当に嬉しい。講道館杯では一つ一つ全力で戦いたい。

【成績】

- 優勝 家泉 崇 (旭化成)
- 準優勝 近野貞治 (総合警備保障)
- 第3位 大金良二 (ダイコロ)
- 第3位 大川康隆 (総合警備保障)

▽準々決勝

- 家泉 掬い投 岡田 (近畿通関)
- 大金 優勢勝 小齋 (NEXCO)
- 大川 優勢勝 深川 (NEXCO)
- 近野 優勢勝 坂本 (セコム)

▽準決勝

- 家泉 合せ技 大金
- 近野 優勢勝 大川

▽決勝

- 家泉 大外刈 近野

男子90kg級 ”本大会初出場の矢崎、決勝戦を一本勝で快勝し、優勝に花を添える“

了徳寺学園矢崎は、試合巧者ぶりを遺憾なく発揮して順当に勝ち上がり、準決勝戦ではNEXCOの近藤と対戦。左右のケンカ組手の両者は、55秒両者指導1のまま、組手争いに終始し引分。ゴールデン・スコア方式による延長戦はあつげなく勝負が決した。矢崎が開始間もなく巴投に身を捨てると、近藤は横転し効果。矢崎決勝戦に進む。

かたや、第2シード、過去準優勝、第3位入賞と優勝を逃し続け、今年こそはと意気込むセコム筒井は、3回戦での日体大柔友会櫻井との接戦以外は順調に勝ち進む。日本エースサポート正木との準決勝戦は、1分15秒内股で効果、1分30秒両者に指導1の後、1分48秒に筒井に指導2。筒井はポイントリードを許すが、2分31秒に放つた鋭い小外刈が見事に決まり一本。筒井再び決勝戦進出。

決勝戦は、矢崎が筒井の奥襟を狙い、筒井がこれを嫌う展開が続き、1分40秒両者に指導1。ほどなく、矢崎が十分に左の組手を取った状態から右引手を離し、低く筒井の懐に飛び込むと同時に筒井の右内股を握り、すくい上げるように畳に飛び込めば、2分13秒筒井は背中から畳に沈む。本大会初出場の矢崎、初優勝を一本勝で飾る。



優勝した矢崎選手
(了徳寺学園)

矢崎の話

右足首を骨折し引退を考えた時期もあった。この大会は柔道の集大成のつもりで臨んだ。再浮上する為のいい感じをつかめた。続く講道館杯もこれからの全ての試合にも勝つて、再び日本代表を目指す。

【成績】

- 優勝 矢崎雄大 (了徳寺学園)
- 準優勝 筒井友和 (セコム)
- 第3位 近藤秀作 (NEXCO)
- 第3位 正木一将 (日本エースサポート)

▽準々決勝

- 近藤 合せ技 小川 (関西医療学園附属高等学校)
- 矢崎 優勢勝 齋藤 (セコム)
- 正木 小外刈 竹森 (高宮接骨院)
- 筒井 優勢勝 白井 (セコム)

▽準決勝

- 矢崎 優勢勝 近藤
- 筒井 谷落 正木

▽決勝

- 矢崎 朽木倒 筒井

男子81kg級 ”谷口、僚友角地に柔道をさせず、うれしい初優勝“

昨年準優勝の旭化成谷口は、立ち上がり苦戦するも地力を発揮し勝ち上がる。準決勝戦は、第3回戦に辛勝した以外はすべて一本勝で勝ち進んだセコム仲田と対戦。共に左組手同士での対戦は、中盤過ぎの2分34秒、仲田に与えられた指導1が唯一のポイントとなり、谷口が苦しみながら2年連続決勝進出を果たす。

対する一昨年のチャンピオン角地は、準々決勝戦で元フランス代表ピエール・フランマンとの死闘を指導1のポイントで制し、準決勝戦に駒を進める。僚友石橋との対戦は、30秒指導1を奪われるが、その後反撃に転じ、1分17秒石橋の左腕をかくぐつて右足を飛ばし、小外掛から体を浴びせ倒して、石橋を背中から沈める。角地一本勝で2年ぶり決勝戦進出。

同僚且つ東海大同窓の決勝戦は、開始1分、後輩の谷口が潜り込みながら角地の足を取り朽木倒から後ろに押し込み、効果で先取。その後も角地は左変形の谷口を攻めあぐね、指導2。長いリーチを利用して谷口は、自分のペースで試合を進め、昨年の準優勝の雪辱を果たし、うれしい初優勝。



優勝した谷口選手
(旭化成)

谷口の話

今年から旭化成に就職が決まり、安定した環境になったので是非とも優勝したかった。決勝の角地先輩とは良く知っているだけに思い切った技が出せなかった。普段使わない技を仕掛けるチャンスも狙っていたが先輩も粘り強かった。今年が勝負の年、講道館杯も制したい。

【成績】

- 優勝 谷口 徹 (旭化成)
- 準優勝 角地信太郎 (旭化成)
- 第3位 仲田直樹 (セコム)
- 第3位 石橋剛士 (旭化成)

▽準々決勝

- 谷口 背負投 山田 (三菱化学物流)
- 仲田 内股 有留 (総合警備保障)
- 角地 優勢勝 ビール・ミン (日本健康開発)
- 石橋 大外刈 吉川 (国土鎗柔道クラブ)

▽準決勝

- 谷口 優勢勝 仲田
- 角地 小外掛 石橋

▽決勝

- 谷口 優勢勝 角地

男子73kg級 ”北川、最多出場階級を制し、66kg級に続き2階級制覇達成“

過去最多100名の参加となったこの階級の戦いはまれに見る激戦となった。81kg級から階級を落としてエントリーした了徳寺学園野瀬は、豪快な技を連発し全一本勝で準決勝に進出。対する昨年の覇者総合警備保障の石川も、これまた快進撃で勝ち上がる。両者技ありを奪い合って引分の後の延長戦で、左組の野瀬が右組の石川に組勝ち、1分2秒大外刈で技ありを奪い勝敗を決する。

一方のアルゼ北川は、逆に階級を上げて出場し、2階級制覇を目指す。国士舘柔道クラブ鞭馬との準決勝戦は、左右のケンカ組手の組手争いで、1分過ぎまで静かな攻防が続いたが、1分54秒、組勝った北川の狙いすました内股が炸裂、鞭馬大きく宙に浮かんで畳に沈む。北川が決勝進出を果たす。

決勝戦は、両者組合わず、それぞれ指導2を受ける。延長戦かと思えた残り2秒、野瀬が右手で北川の左膝辺りのスポンを握ると、北川も右手で野瀬のスポンの左膝辺りを握る。その一瞬の攻防は北川が野瀬を上回り、野瀬は堪らず尻から倒れ、北川は両こぶしを挙げてガッツポーズ。北川は野瀬を技ありで降し、4年前の66kg級優勝に続く2階級制覇。



優勝した北川選手
(アルゼ)

北川の話

最後はあれしかなかった。野瀬は大幅に体重を落としてこの階級に挑戦してきた。自分も筋肉が付きすぎて10kg減量し、この階級に挑戦した。お互い厳しい戦いだっただけで、教師をしたあともう一度世界に挑戦したいと思うので、アルゼの社長や監督にお世話になった。勝って多くの方々のご恩に報いたい。

【成績】

- 優勝 北川勝広 (アルゼ)
準優勝 野瀬英豪 (了徳寺学園)
第3位 石川美久 (総合警備保障)
第3位 鞭馬裕輝 (国士舘柔道クラブ)

▽準々決勝

- 石川 後腰 乾 (日柔整請求サービス)
○野瀬 搦い投 横山 (ツクハ計画)
○北川 優勢勝 明先 (まるとや接骨院)
○鞭馬 内股 藤村 (日本文理大学クラブ)

▽準決勝

- 野瀬 優勢勝 石川
○北川 払腰 鞭馬

▽決勝

- 北川 優勢勝 野瀬

男子66kg級 ”復活鳥居、延長戦を勝ち抜き4度目のV。更なる高みに挑戦“

階級を上げての出場、60kg級に続く優勝を狙うセコム中野は、了徳寺学園篠崎等の強豪に競り勝ち、準決勝戦に駒を進める。アーバンセキュリティ大和との一戦は、右組中野が左組大和を足払いで攻め、1分3秒素早い動きからの小外刈で効果。更に、1分51秒背負投で技ありを奪うや、すかさず袈裟固に抑えて合せ技一本。中野決勝戦に臨む。

かたや、旧65kg級と併せ三度優勝の了徳寺学園鳥居は、本大会久しぶりの出場。初戦から寝技の冴えを見せての進撃。僚友西野との準決勝戦は、鳥居が試合を攻勢に進めるも引分。延長戦では開始早々の21秒、鳥居得意の巴投に西野が横転。これが効果の判定となって試合終了。鳥居は7年ぶりの決勝戦進出を決める。

決勝戦。両者、共に技が出ず57秒に両者に指導1。その後鳥居は一本背負、巴投、飛びつき十字固と果敢に攻めるも決め手なく、中野も釣手のみの背負投で鳥居の体を泳がせるもポイントは奪えず延長戦に突入。延長戦も同様な試合の展開で時間が経過し、勝負の判定は旗判定に。33歳ベテランながら攻め続けた鳥居に白旗2本上がり、鳥居平成10年以来、旧65kg級と併せて4度目の優勝。夢を追って講道館杯に臨む。



優勝した鳥居選手
(了徳寺学園)

鳥居の話

中野とは初対戦だが、毎週水曜日に練習(実業団合同練習)している。手強い相手なので一瞬の油断も許されなと思うっていた。講道館杯では内柴、秋本を倒します。世界チャンピオンになるまで挑戦し続けます。

【成績】

- 優勝 鳥居智男 (了徳寺学園)
準優勝 中野真太郎 (セコム)
第3位 大和大輔 (アーバンセキュリティ)
第3位 西野公章 (了徳寺学園)

▽準々決勝

- 大和 優勢勝 千葉 (國學院院友誼道クラブ)
○中野 優勢勝 古賀 (新日本製鐵・広畑)
○西野 小内刈 佐藤 (天京フーズ)
○鳥居 優勢勝 望月 (セコム)

▽準決勝

- 中野 袈裟固 大和
○鳥居 優勢勝 西野

▽決勝

- 鳥居 優勢勝 中野

男子60kg級 ”小川、苦闘の末大会2年連続優勝を達成“

二連覇を目指す了徳寺学園小川は、第1回戦、第2回戦を最小ポイント差の勝利にとどまるも、準々決勝戦では得意の背負投一本で勝利し氣勢を上げて準決勝戦に進出。小川は自衛隊体育学校浅野に1分45秒効果果を奪われ先制されるが、残り30秒小川起死回生の一本背負が決まって一本。小川が逆転勝って2年連続決勝戦進出を果たす。

対する日体大柔友会亀崎は、同窓の先輩まるや接骨院鈴木との準決勝戦を、1分9秒場外付近にて大外刈で有効を奪った後は、鈴木は猛攻をしのぎ、唯一のポイントを守り切って決勝戦に駒を進める。

決勝戦は、両者技らしい技のないまま時間が経過、2分8秒亀崎にピストル・グリップでの指導1が与えられる。その後は小川が単発の巴投で亀崎を揺さぶるが、効なくそのままザー。攻防の乏しい決勝戦を小川、昨年に続き連続優勝を遂げる。



優勝した小川選手
(了徳寺学園)

小川の話

亀崎は高校、大学と後輩で、長く付き人務めてくれた。思い出深い試合になったので、高校の先輩に報告する。お世話になった多くの人達に報いる為にも優勝しかないと考えていた。今日優勝で自信も深まった。野村、江種の壁は厚いが、世界・オリンピックを目指す。

【成績】

優勝 小川武志 (了徳寺学園)
準優勝 亀崎俊昭 (日体大柔友会)
第3位 浅野大輔 (自衛隊体育学校)
第3位 鈴木祐介 (まるや接骨院)

▽準々決勝

○小川 背負投 新野 (自衛隊体育学校)
○浅野 背負投 松本 (日体大柔友会)
○鈴木 横四方固 今田 (自衛隊体育学校)
○亀崎 優勢勝 山本 (総合警備保障)

▽準決勝

○小川 背負投 浅野
○亀崎 優勢勝 鈴木

▽決勝

○小川 優勢勝 亀崎

男子22歳未満 ”松岡、新人同士、同じオール一本勝の山崎を一本勝で制し優勝“

三菱重工名古屋の新人山崎は、長身を生かした足技と寝技で初戦から一本勝で勝利を重ね勝ち進む。準決勝戦は、開始早々の30秒日本貨物鉄道高橋が伏せた所を、山崎が腰絞で攻めれば、高橋思わず参った。新人山崎、猶もオール一本勝を重ね決勝戦に進出。

一方、十全会十全病院松岡も今年高校卒業の新人。これまた初戦から多彩な投技を駆使してオール一本勝で勝ち上がる。奇しくも準決勝戦の相手は山崎と同じ三菱重工名古屋所属の池上。両者の対戦は、松岡が30秒袖釣込腰で効果を奪い、2分20秒には小外掛技ありで池上を転がし、そのまま横四方固に押え込んで一本。松岡も快進撃で決勝戦へ。

決勝戦は、181cm、85kg長身の山崎と172cm、115kg重量のある松岡との対戦。開始早々の17秒、松岡は山崎の左釣手が離れた瞬間、右組から低く股間に飛び込む一本背負。山崎を担ぎ上げながら前方に巻込めば、山崎はごろりと1回転し背中から畳に着地。松岡、オール一本勝で初優勝を飾る。



優勝した松岡選手
(十全会十全病院)

松岡の話

補助看護士の仕事と准看護士の免許をとる為の学習に追われて、思うような稽古が出来ず自信が無かった。得意技の背負いは左右どちらでも掛けられる。一試合一試合思い切り良く攻めた事が優勝に繋がった。とても嬉しい。

【成績】

優勝 松岡晃史 (十全会十全病院)
準優勝 山崎 真 (三菱重工・名古屋)
第3位 高橋慎太郎 (日本貨物鉄道)
第3位 池上勇氣 (三菱重工・名古屋)

▽準々決勝

○山崎 横四方固 田辺 (十全会・聖明病院)
○高橋 横四方固 渡辺 (十全会・回生病院)
○松岡 優勢勝 及川 (了徳寺学園)
○池上 袈裟固 梶本 (関西学院大学附属警備院)

▽準決勝

○山崎 絞技 高橋
○松岡 合せ技 池上

▽決勝

○松岡 一本背負 山崎

女子78kg超級 ”新人馬籠すべて寝技の一本勝で初優勝“

昨年準優勝のヤックスケアサービス清水は、初戦一本勝の後の準決勝戦は大阪鳳林医療学院近藤と対戦。40秒両者指導1後、清水が近藤の体勢不十分のまま仕掛けた内股を潰し、上四方固に押さえるも8秒で近藤場外に逃れる。その後3分44秒、清水が大外刈で攻めると見せての小外掛が見事に決って一本。清水2年連続決勝戦進出。

一方のほのぼの会馬籠は、危なげなく準決勝戦に進出し、日水製薬長谷川との対戦。1分40秒にフェイント気味の二段モーシヨンの小外掛で技ありを奪うと、そのまま袈裟固に抑え2分30秒、合せ技一本。馬籠2試合一本勝で難なく決勝戦進出。

決勝戦は、体格に勝る馬籠は清水の奥襟を掴んで、小内刈、払腰と攻勢に出る。1分を過ぎ清水が一本背負に来たところを、馬籠はこれを潰し寝技に。清水の腕を極めながらうまく回り込んで、1分46秒崩上四方固に押え込む。その後、横四方固に移行し一本。新人馬籠すべて寝技の一本勝で初優勝。



優勝した馬籠選手 (ほのぼの会)

馬籠の話
全力で攻める事だけを考え試合に臨んだ。決勝戦は締め技から入って巧く相手の体を返すことができた。初出場で初優勝出来て嬉しい。講道館杯も含め目の前の試合を一つ一つ勝つことが目標。

【成績】

- 優勝 馬籠恵子 (ほのぼの会)
- 準優勝 清水伊穂理 (ヤックスケアサービス)
- 第3位 近藤麻美 (大阪鳳林医療学院)
- 第3位 長谷川貴美子 (日水製薬)

▽二回戦

- 清水 横四方固 長谷川 (セコム信越)
- 近藤 払巻込 甲斐 (K-Reine)
- 馬籠 袈裟固 中井 (日本エースポト)
- 長谷川 払巻込 佐藤 (綜合警備保障)

▽準決勝

- 清水 支釣込足 近藤
- 馬籠 袈裟固 長谷川

▽決勝

- 馬籠 上四方固 清水

女子78kg級 ”平岡、3試合一本勝で2年ぶり2度目の栄冠に輝く“

コマツ松崎は、準決勝戦で昨年のチャンピオン長瀬と対戦。松崎は左体落、右一本背負を狙い、長瀬は長身から右内股、右大外刈、右大内刈で攻める。3分16秒に、引き手を掴んだ松崎が大内刈から足車に連絡すれば、長瀬はこれを払釣込足で返そうするも尻から倒れ、効果。長瀬は猛反撃に移るが、松崎も積極さを失わず応戦し時間。松崎は見応えのある一戦を制し、自身3度目の決勝戦進出を果たす。

対する平成国際大学柔道クラブ平岡は、三井住友海上火災保険岡田との準決勝戦。右組同士の両者、1分59秒に平岡が小内刈で効果を奪い先取。その後も平岡が終始攻勢に出て、終盤の4分9秒に小外掛を岡田が支釣込足で返しに来る所を、平岡が浴びせるように倒して一本。平岡2度目の決勝戦進出。

決勝戦。序盤は松崎が優勢に試合を進めるが、平岡は中盤から攻勢に転じ、3分15秒大外刈から大内刈への連絡技で技あり。リードされ反撃に転じた松崎が時間切れ寸前内股に攻めるも、平岡がこれを松崎の左軸足に右足を掛け小外掛で返せば、ブザーと同時に松崎は仰向けに倒れ一本。平岡2年ぶり2度目の栄冠。



優勝した平岡選手 (平成国際大学柔道クラブ)

平岡の話
2度目の優勝でとても嬉しい。常に100%の力を出すことが私のモットー。あまり先の事を考えても空回りになるので、これから一つひとつ全力でしぶとく勝負していきたい。

【成績】

- 優勝 平岡麻美 (平成国際大学柔道クラブ)
- 準優勝 松崎みずほ (コマツ)
- 第3位 長瀬めぐみ (了徳寺学園)
- 第3位 岡田紘味 (三井住友海上火災保険)

▽準々決勝

- 長瀬 払腰 松田 (タカメディカル)
- 松崎 優勢勝 鳥谷部 (セコム)
- 岡田 体落し 服部 (自衛隊体育学校)
- 平岡 不戦勝 近藤 (ダイコク)

▽準決勝

- 松崎 優勢勝 長瀬
- 平岡 小外刈 岡田

▽決勝

- 平岡 小外掛 松崎

女子70kg級 ”七條、激しい攻防の試合を勝ち抜き、うれしい初優勝“

了徳寺学園七條は、強豪三井住友海上火災貝山を延長戦による接戦の末内股透かしで破るほかは、他の3試合を簡単に片付け勝ち上がる。今村整骨院今村との準決勝戦は、七條が奥襟をがっちり引いて今村を圧迫し、相手の下がる所を大内刈、大外刈で攻める展開。七條、1分45秒大内刈有効。2分27秒大内刈から大外刈に変化し技あり。3分13秒得意の大内刈で合せ技一本。

かたや、三井住友海上火災保険清水千晶は、準々決勝戦で63kg級元世界チャンピオンワイエスフード手島(旧姓前田)を接戦の末降し、準決勝戦に駒を進める。了徳寺学園山下との対戦は、清水が開始早々から左一本背負を連発し56秒に効果。1分40秒山下の反撃をかわして小内巻込で有効を奪い、そのまま肩固に押える。新鋭清水、一本勝で決勝戦初進出。

七條右組、清水左組のケンカ組手の両者の決勝戦。長身の七條は大外刈、大内刈、上背の無い清水は低い背負投と互いに攻め合うも、互いに不十分で引分ける。延長戦では、清水がやや攻勢に進める中、3分16秒組際の一瞬、七條が右大外刈で鋭く刈込めば、清水たまたらず横転。七條が見応えのある攻防を技ありで制し、七條に初優勝の栄冠。



優勝した七條選手
(了徳寺学園)

七條の話
決勝戦は一番厳しい試合だった。気持ちだけは負けまいと、とにかく前に出続けた事が良い結果になった。更に稽古を積んで、講道館杯でも優勝して世界へのきっかけにしたい。

【成績】

- 優勝 七條 芳美 (了徳寺学園)
準優勝 清水 千晶 (三井住友海上火災保険)
第3位 今村 磨紀 (今村整骨院)
第3位 山下 亜希 (了徳寺学園)

▽準々決勝

- 七條 内股すかし 貝山 (三井住友海上火災保険)
○今村 優勢勝 内田 (ダイコロ)
○清水 優勢勝 手島 (ワイエスフード)
○山下 優勢勝 本田 (日本支理大学クラブ)

▽準決勝

- 七條 合せ技 今村
○清水 肩固 山下

▽決勝

- 七條 優勢勝 清水

女子63kg級 ”徳久、逆転の押え込みで念願の優勝を手中にする“

日本製菓東野は、一本勝で勝ち進みセコム吉澤との準決勝戦。ケンカ組手の両者の対戦は、48秒吉澤に指導1。1分21秒互いに大腰の打合いから東野が右手で吉澤の軸足の右足を掴んで、吉澤を転がし有効を奪う。その後は、吉澤は矢継ぎ早に多彩な攻めで反撃するが、東野はこれを終了間際の指導1のみにとどめ、決勝戦初進出を果たす。対する三井住友海上火災保険徳久は、セコム滝口と準決勝戦で対戦。両者ケンカ組手の戦いで見るべき攻防はなく引分ける。続いて延長戦に移り、試合は中盤寝技の攻防となるが、3分1秒徳久が腕挫十字固に入ると、滝口が畳を叩き、徳久が決勝戦に駒を進める。

決勝戦は、30秒徳久が場外に足を踏み出し指導1を受ける。その後、東野は奥襟を掴んで払腰で攻め、徳久はケンケン内股で攻め合うが、双方ポイントなく時間が経過。最小得失点差で迎えた中盤過ぎ、徳久が背負投に入り、疲れた東野が伏せた所を、徳久は寝技で執拗に攻める。3分10秒、ついに東野の足が抜け縦四方固に。続いて横四方固に移行し25秒経過。徳久、念願の初優勝を一本勝で飾る。



優勝した徳久選手
(三井住友海上火災保険)

徳久の話
東野とは去年負けた相手なので意地でも勝ちたかった。気持ちは焦るばかりだったが、巧く押え込めて良かった。講道館杯も今日の課題を克服し優勝したい。

【成績】

- 優勝 徳久 瞳 (三井住友海上火災保険)
準優勝 東野 妙利 (日本製菓)
第3位 吉澤 穂波 (セコム)
第3位 滝口 並穂 (セコム)

▽準々決勝

- 吉澤 優勢勝 中野 (広島大学柔道クラブ)
○東野 合せ技 中野 (自衛隊体育学校)
○滝口 優勢勝 谷本 (コマツ)
○徳久 優勢勝 今井 (北関東総合警備保障)

▽準決勝

- 東野 優勢勝 吉澤
○徳久 腕挫十字固 滝口

▽決勝

- 徳久 横四方固 東野

女子57kg級 ”徐々に調子を上げた新人宮本、決勝戦を寝技で制し、初制覇“

この階級は、女子の部過去最多33名のエントリーとなった。佑啓会ふる里学舎坂東は、寝技一本勝で勝ち上がり、コマツ吉成との準決勝戦。坂東は、1分38秒袖釣込腰で技ありを奪われるが、その後反撃に移り、2分5秒大内刈技ありでタイに持ち込む。続く3分17秒肩車有効。残り40秒坂東の浅い大外刈を吉成が返そうと体を入れ替えた一瞬、逆に坂東の刈足が深く入り吉成は真後ろに倒れ、一本攻防激しい見応えのある一戦も後半猛攻した坂東が制す。

かたや、了徳寺学園の新人宮本は、調子が出ず辛うじて準決勝戦に進出。対するコマツ岩田は、3試合オール一本勝で勝ち上がる。注目の両者の対戦は、宮本が1分過ぎに指導1、3分24秒に指導2を奪い、残り28秒には一本背負で技あり。残り14秒大内刈効果と続けざまにポイントを奪取。宮本ようやくエンジンが掛かり始め、決勝に駒を進める。

決勝戦、開始早々、宮本は坂東を寝技で攻め縦四方固で押え込む。坂東は19秒でこれをよく逃れる。宮本は1分49秒に小外掛で技あり。中盤は、両者もつれて寝技の攻防となり、宮本が坂東の三角絞を外すと同時に、2分40秒袈裟固に押え込む。合せ技一本、宮本うつぶんを晴らす快勝で優勝を勝ち取る。



優勝した宮本選手
(了徳寺学園)

宮本の話
ワールドカップの代表から漏れた時とても悔しかった。世界代表は去年こと。今年に割り切った新たな挑戦をしたい。初出場の大会なので序盤は体が固く、思うような試合が出来なかったが、優勝という結果を良しとしたい。初心に戻り一戦一戦力を出し切ることが今後の課題。

【成績】

- 優勝 宮本樹理 (了徳寺学園)
準優勝 坂東亜沙美 (佑啓会ふる里学舎)
第3位 吉成麗子 (コマツ)
第3位 岩田千絵 (コマツ)

▽準々決勝

- 坂東 横四方固 山中 (了康会・小泉病院)
●吉成 優勢勝 桂 (セコム)
●宮本 優勢勝 峯田 (セコム)
○岩田 内股 三浦 (白水製薬)

▽準決勝

- 坂東 大外刈 吉成
○宮本 優勢勝 岩田

▽決勝

- 宮本 袈裟固 坂東

女子52kg級 ”吉村、岡崎の四連覇を阻み、嬉しい初優勝“

創電社岡崎は、快調に進撃し準決勝戦でも富士柔道クラブ望月を内股、足払いで圧倒する。11秒技が出ない望月に指導1。続いて3分4秒指導2。3分48秒反撃に出る望月の動きが止まった瞬間、岡崎が狙いすませたような大内刈を放つと、見事に決まり一本。岡崎今年も決勝戦へ。

一方、セコム吉村もオール一本勝で準決勝戦に進出。三井住友海上火災保険の新人村口との対戦は、ケンカ組手の両者決め手がないままに推移するも、村口が次第に腰を引き防御の姿勢になる。残り46秒には吉村が小外刈で村口を崩し、直ちに寝技に入る。吉村は首を決めながらうまく回り込み、残り16秒に上四方固めで決め、決勝戦進出。

昨年の準決勝戦は延長戦で岡崎が吉村を降した因縁の対決。長身の岡崎が奥襟を制して強引な大外刈、大外巻込、内股で攻めるが、吉村は前傾姿勢でこれをしのぎ、一方の吉村は何度か内股を放つも岡崎は難なく防ぐ。残り33秒、岡崎が執拗に掛けた大外刈が膝から崩れ、吉村が低い姿勢から体を浴びせると、岡崎は尻から畳に落ち効果。吉村は岡崎の四連覇を阻みうれしい初優勝。2階級で5度の優勝に輝く岡崎にはあきらかめきれない一瞬の攻防であった。



優勝した吉村選手
(セコム)

吉村の話
4連覇を阻止したい気持ちも少しはあったが、昨年から選抜・実業・講道館杯と3連敗しているから何としても勝ちたかった。岡崎さんに勝って念願の優勝を果たし、とても嬉しい。講道館杯でも優勝して国際大会で活躍したい。

【成績】

- 優勝 吉村依子 (セコム)
準優勝 岡崎綾子 (創電社)
第3位 望月加奈子 (富士柔道クラブ)
第3位 村口ゆい (三井住友海上火災保険)

▽準々決勝

- 岡崎 縦四方固 児玉 (K・Refine)
●望月 優勢勝 添野 (北関東総合警備保障)
●村口 優勢勝 近藤 (S・T・O)
○吉村 袈裟固 黒木 (錦秀会阪和病院)

▽準決勝

- 岡崎 大内刈 望月
○吉村 上四方固 村口

▽決勝

- 吉村 優勢勝 岡崎

女子48kg級 ”宝真由美、延長戦を制し、昨年が続いて二度目の栄冠“

昨年に続き優勝を狙うコマツ宝は、十全会回生病院枝村との準決勝戦を攻勢に試合を進める。1分19秒片襟背負投を掛け、枝村が残った所を猶も体を捻って枝村を横転させ有効を奪う。続く2分44秒にも低い背負投で有効を奪った後、寝技に攻め上四方固に押え、最後は袈裟固に移行し一本。宝2年連続決勝戦進出。

一方の大阪鳳林医療学院上原は、古賀塾山本との準決勝戦で終了間際に疲れの見えた山本から、場外で渾身の力を込め振り回すような大外刈で畳に沈め、技ありを奪い、決勝戦進出を決める。

両者の決勝戦は、宝が59秒右手を上原の膝に当てての一本背負で有効を奪えば、上原は、2分52秒釣手を離した宝が前に出る瞬間を捉えた一本背負で有効を奪う。その後は両者有効を各1個奪うが引分け、延長戦に突入。延長戦では、開始早々の11秒宝が低い姿勢から右一本背負に入り、これを受ける上原の右膝を抱えてすくうように前に回転すれば、上原は堪らず横転し、主審は有効の宣告。その瞬間、宝の二連覇成る。



優勝した宝選手 (コマツ)

宝の話
今日は全体的に詰めが甘かった。決勝では延長戦に持ち込まれたが、先に攻める事だけを意識していた。講道館杯も優勝を狙う。続く試合も全力で勝ち続けて、確実に力を付けたい。

【成績】

優勝 宝 真由美 (コマツ)

準優勝 上原郁美 (大阪鳳林医療学院)

第3位 枝村聡子 (十全会・回生病院)

第3位 山本聡子 (古賀塾)

▽一回戦

○宝 横四方固 末成 (横浜国大柔友会)

◎枝村 優勢勝 谷本 (たんぼ助産院)

◎山本 優勢勝 新井 (北関東総合警備保障)

●上原 優勢勝 菅 (近大クラブ)

▽準決勝

○宝 袈裟固 枝村

◎上原 優勢勝 山本

▽決勝

◎宝 優勢勝 上原



100kg超級 片淵 内股 落合



90kg級 矢崎 朽木倒 筒井



78kg超級 馬籠 上四方固 清水

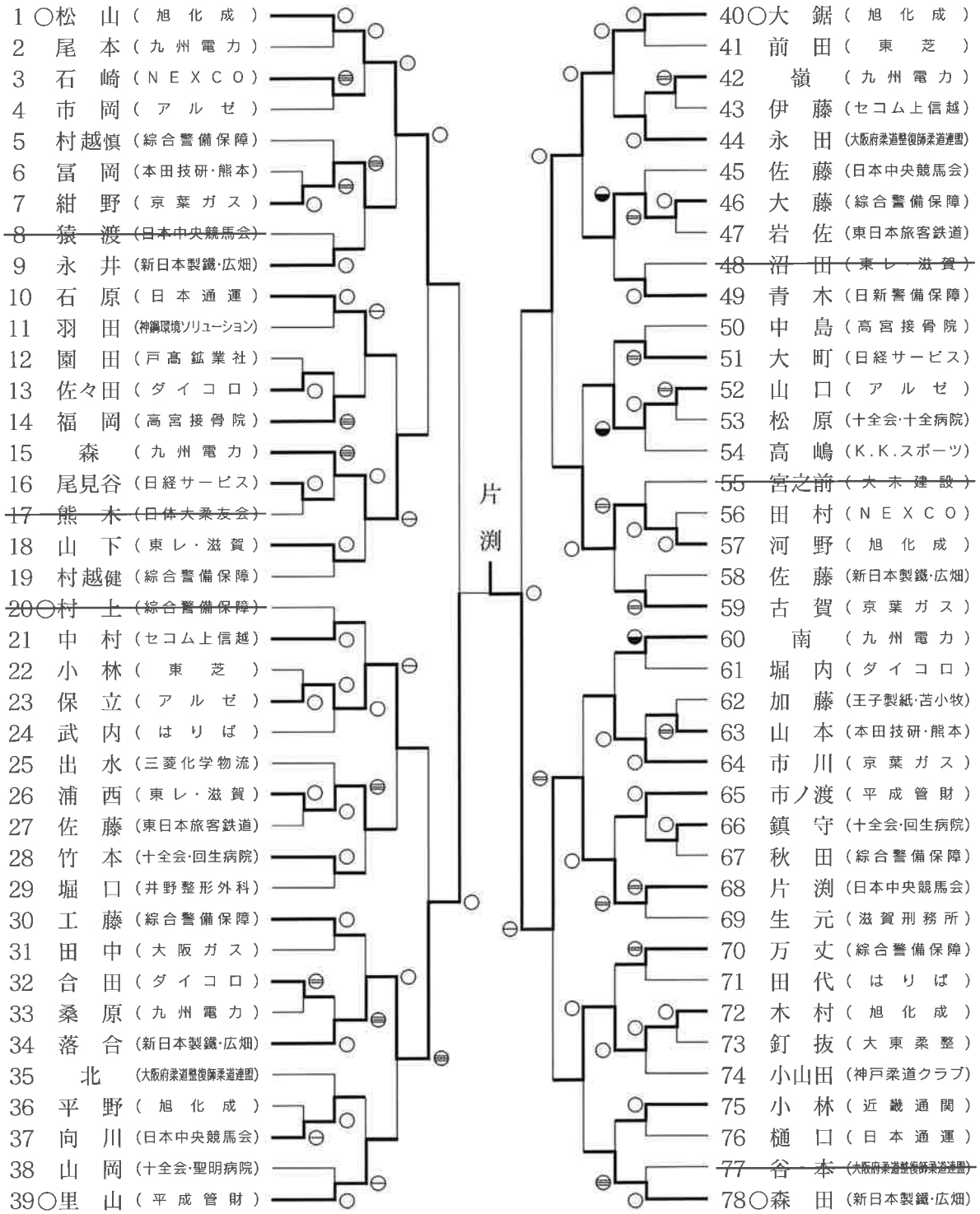


78kg級 平岡 小外掛 松崎

熱戦風景 1

成績表

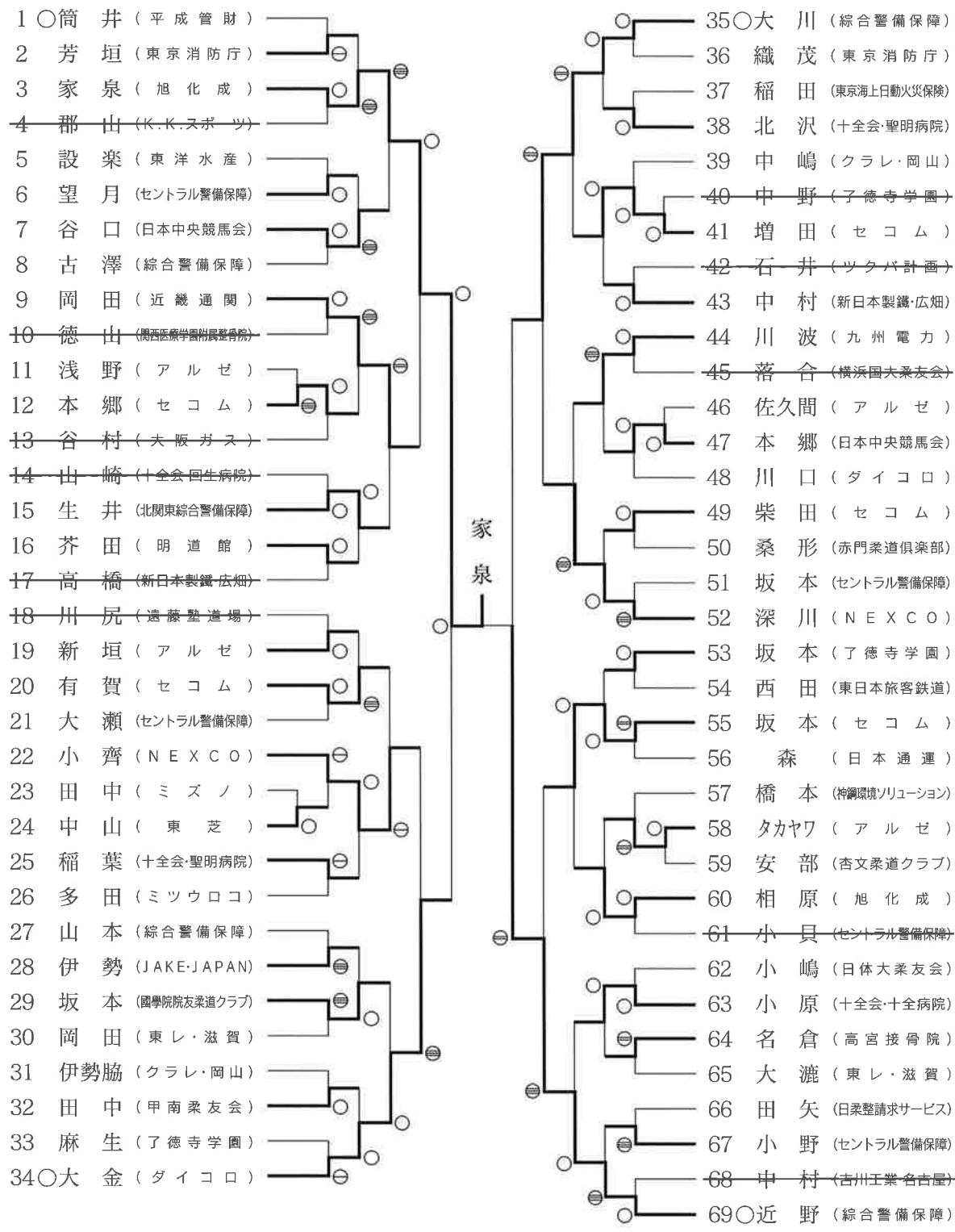
男子100kg超級(78名)



○印はシード選手

成績表

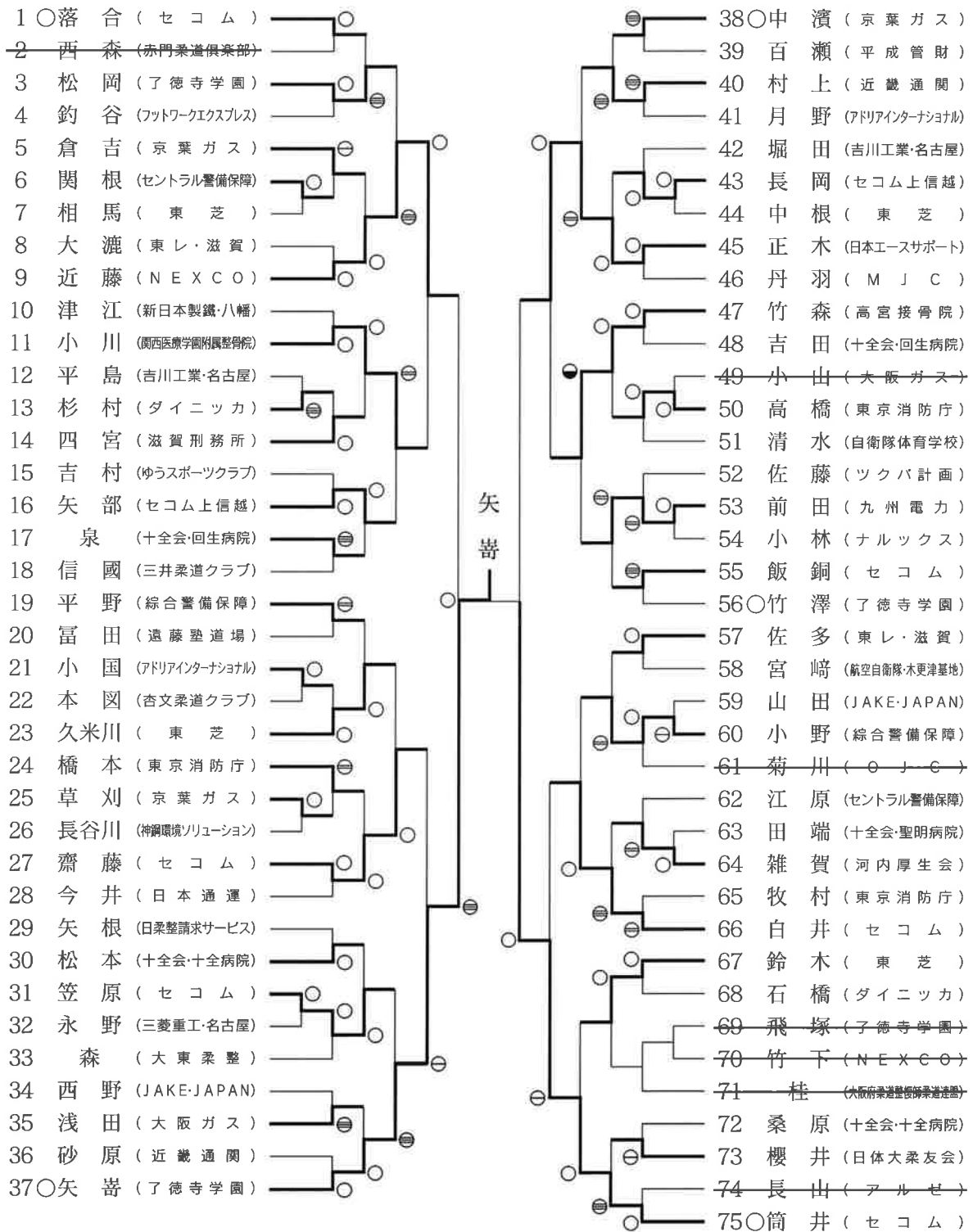
男子100kg級(69名)



○印はシード選手

成績表

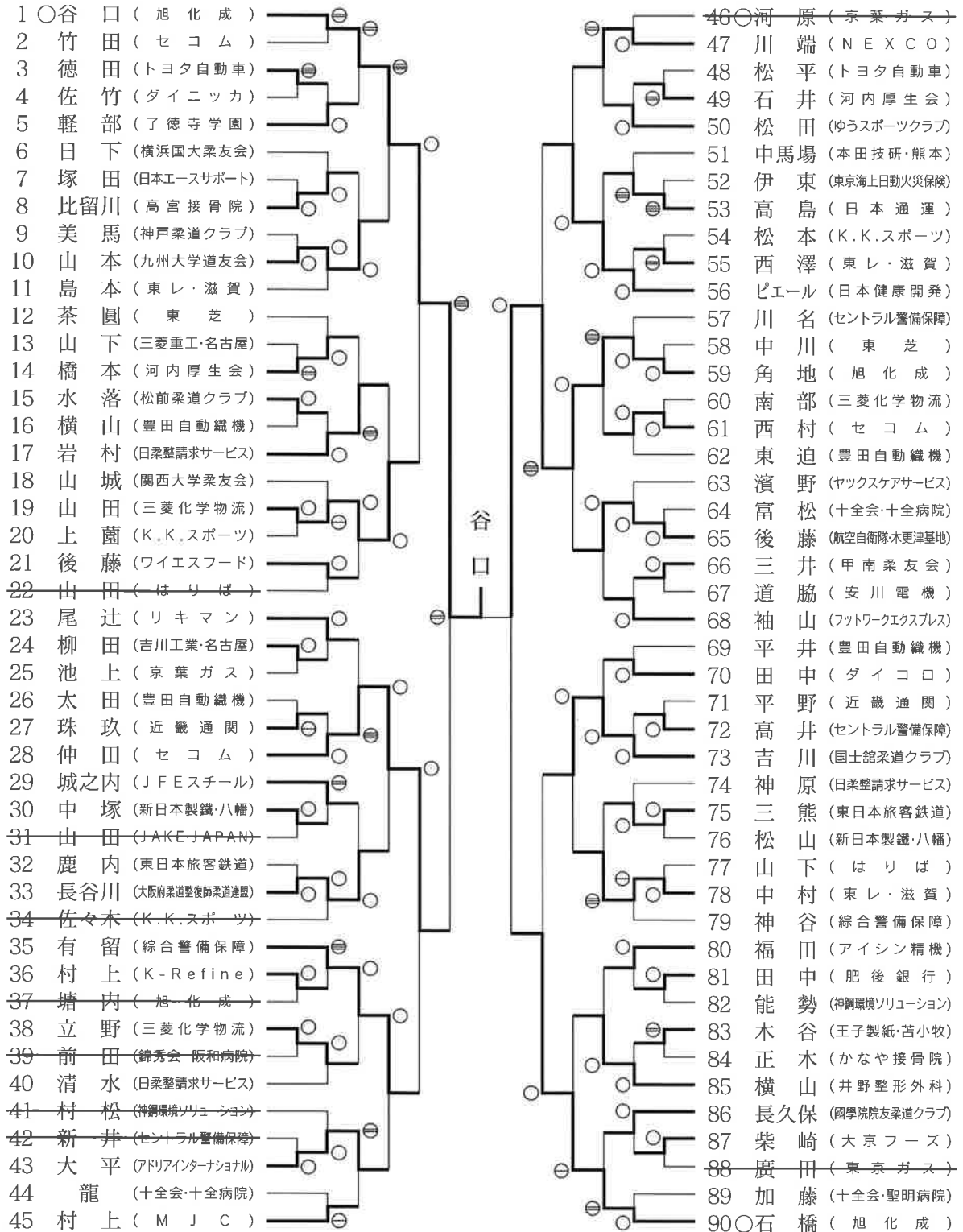
男子90kg級(75名)



○印はシード選手

成績表

男子81kg級(90名)



○印はシード選手

成績表

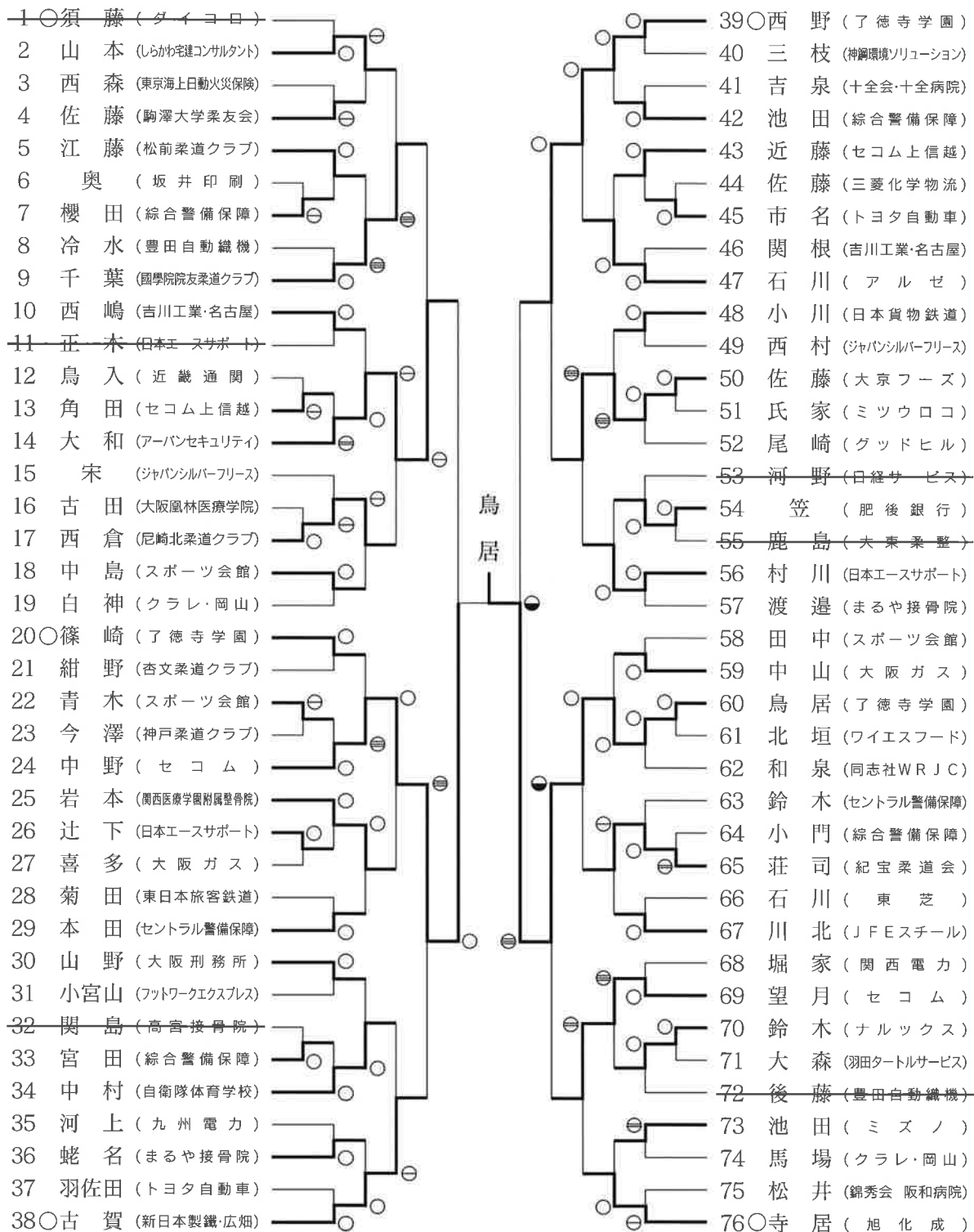
男子73kg級(100名)

1 ○石川 (総合警備保障)	51 ○松原 (セコム)
2 河野 (日本通運)	52 齋藤 (JAKE-JAPAN)
3 早川 (川口市役所)	53 栗飯原 (古賀塾)
4 向井 (吉川工業・名古屋)	54 田口 (羽田タートルサービス)
5 重原 (関西電力)	55 高橋 (新日本製鐵・広畑)
6 向野 (MJC)	56 北川 (アルゼ)
7 小玉 (新日本製鐵・名古屋)	57 佐伯 (新日本製鐵・八幡)
8 新谷 (関西大学柔友会)	58 秋丸 (大京フーズ)
9 岩田 (東京消防庁)	59 中島 (自衛隊体育学校)
10 野々部 (豊田自動織機)	60 森田 (神戸柔道クラブ)
11 岡本 (東芝)	61 宮本 (松前柔道クラブ)
12 北井 (新日本製鐵・八幡)	62 中村 (京葉ガス)
13 乾 (日柔整請求サービス)	63 荒平 (了徳寺学園)
14 下野 (ツクバ計画)	64 芝崎 (秋元道場)
15 瀧本 (K.K.スポーツ)	65 濱田 (日本エヌスポーツ)
16 平川 (大阪府柔道整復師柔道連盟)	66 高野 (神鋼環境リユージョン)
17 高橋 (松前柔道クラブ)	67 高明 (まるや接骨院)
18 工藤 (NE-XCO)	68 平岡 (ゆうスポーツクラブ)
19 黒江 (日本健康開発)	69 青柳 (東京消防庁)
20 植田 (総合警備保障)	70 宮崎 (日柔整請求サービス)
21 寺居 (同志社WRJC)	71 高須 (豊田自動織機)
22 前田 (錦秀会 阪和病院)	72 石井 (セントラル警備保障)
23 阿部 (ワイエスフード)	73 鈴木 (東京海上日動火災保険)
24 宮崎 (はりば)	74 石村 (総合警備保障)
25 近藤 (ナチュラル)	75 板倉 (東芝)
26 田窪 (済美学園)	76 井上 (了徳寺学園)
27 谷岡 (甲南柔友会)	77 井上 (広島大学柔道クラブ)
28 松本 (大阪ガス)	78 大沼 (セコム土信越)
29 濱上 (豊田自動織機)	79 赤阪 (関西学院柔道クラブ)
30 横山 (ツクバ計画)	80 磯 (東レ・滋賀)
31 加藤 (建装工業)	81 坂本 (井野整形外科)
32 岩崎 (新日本製鐵・八幡)	82 市来 (関西大学柔友会)
33 別府 (日柔整請求サービス)	83 野崎 (日本貨物鉄道)
34 近藤 (セントラル警備保障)	84 鞭馬 (国土館柔道クラブ)
35 車谷 (養気塾)	85 藤猪 (大阪鳳林医療学院)
36 木内 (東日本キヨスク)	86 中村 (新日本製鐵・八幡)
37 森本 (十全会・回生病院)	87 森本 (総合警備保障)
38 野瀬 (了徳寺学園)	88 三角 (日柔整請求サービス)
39 永岡 (東京海上日動火災保険)	89 有川 (ツクバ計画)
40 高橋 (東日本旅客鉄道)	90 田中 (東芝)
41 横田 (総合警備保障)	91 大田 (K.K.スポーツ)
42 本郷 (自衛隊体育学校)	92 藤村 (日本文理大学クラブ)
43 伊志嶺 (伊志嶺商会)	93 原 (十全会・回生病院)
44 塚田 (東洋水産)	94 岡本 (東日本旅客鉄道)
45 奥村 (神鋼環境リユージョン)	95 篠崎 (九州電力)
46 金杉 (秋元道場)	96 皆田 (東洋水産)
47 今井 (井野整形外科)	97 藤原 (新日本製鐵・大分)
48 延島 (まるや接骨院)	98 齋藤 (古文柔道クラブ)
49 沖田 (九州電力)	99 野津 (クラレ・岡山)
50 渡邊 (クラレ・岡山)	100 ○稲澤 (ダイヨロ)

○印はシード選手

成績表

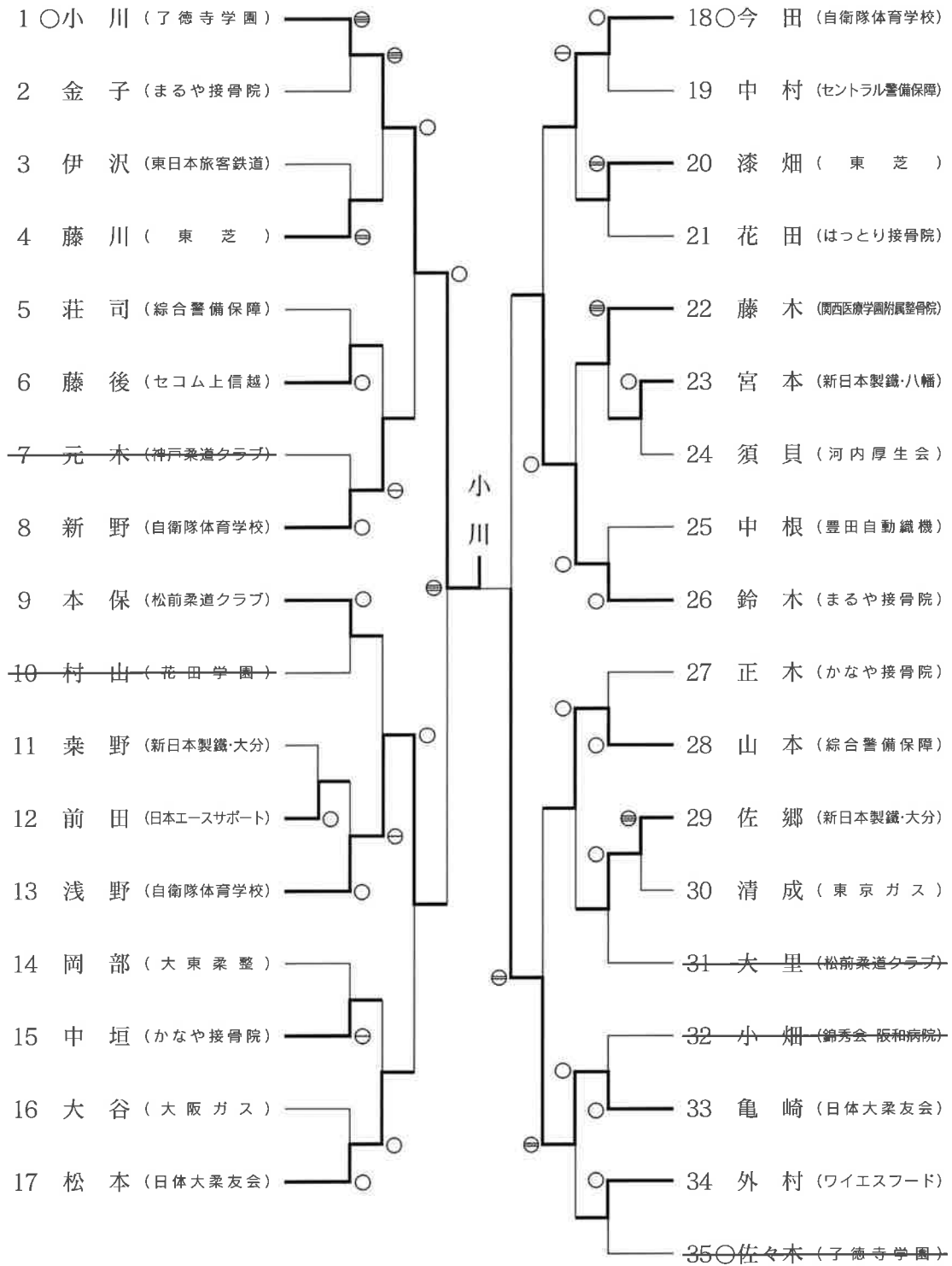
男子66kg級(76名)



○印はシード選手

成績表

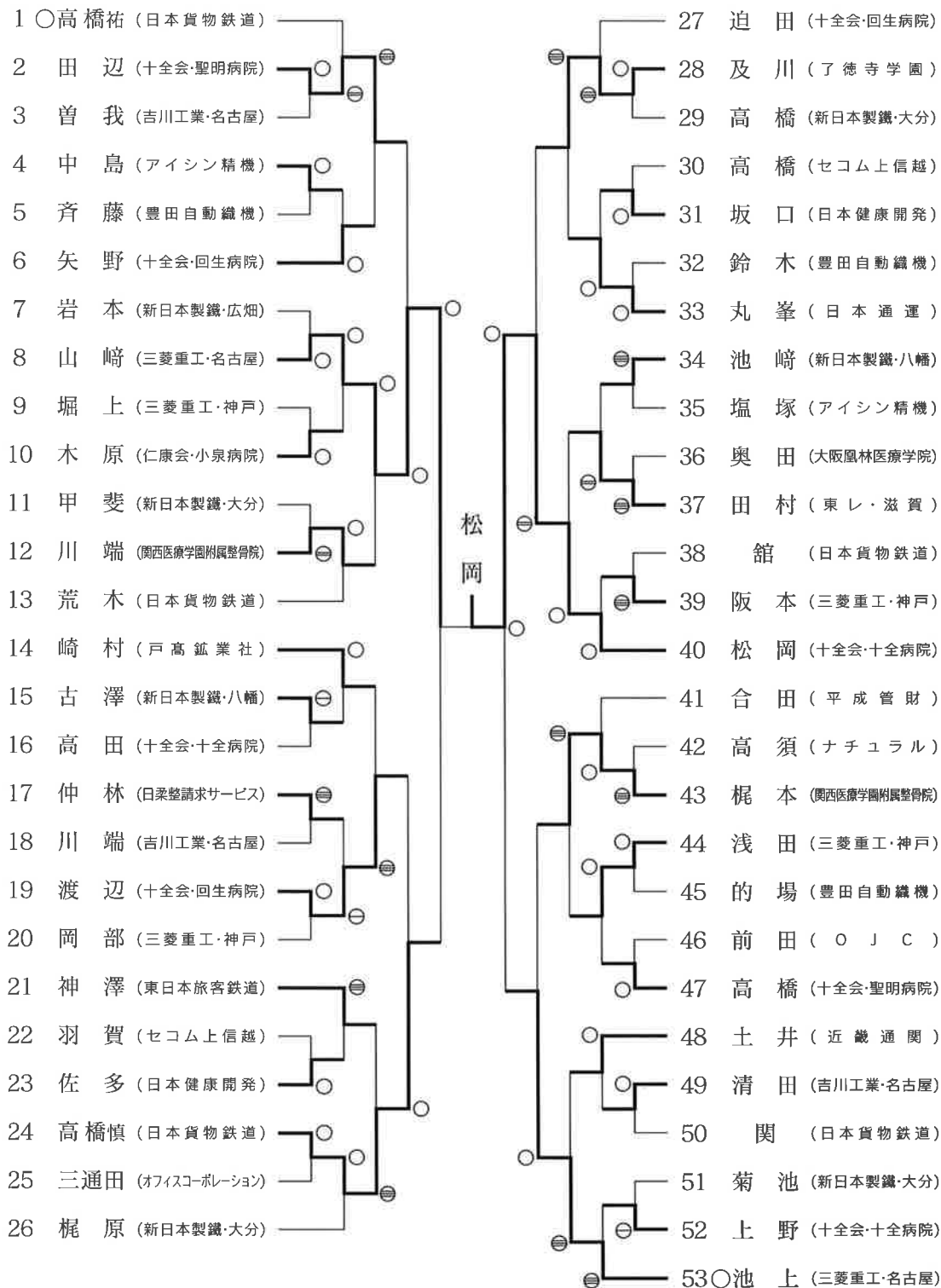
男子60kg級(35名)



○印はシード選手

成績表

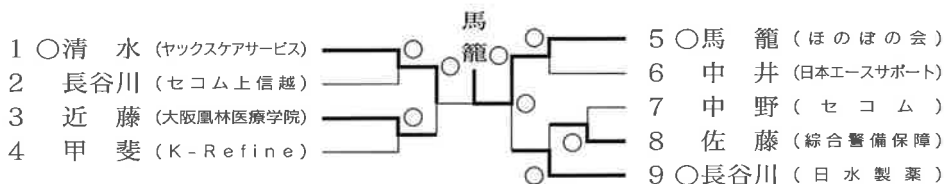
男子22歳未満(53名)



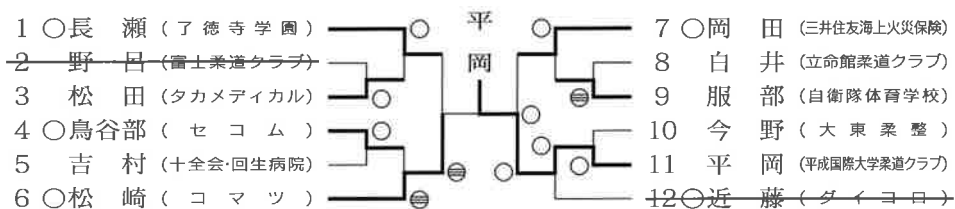
○印はシード選手

成績表

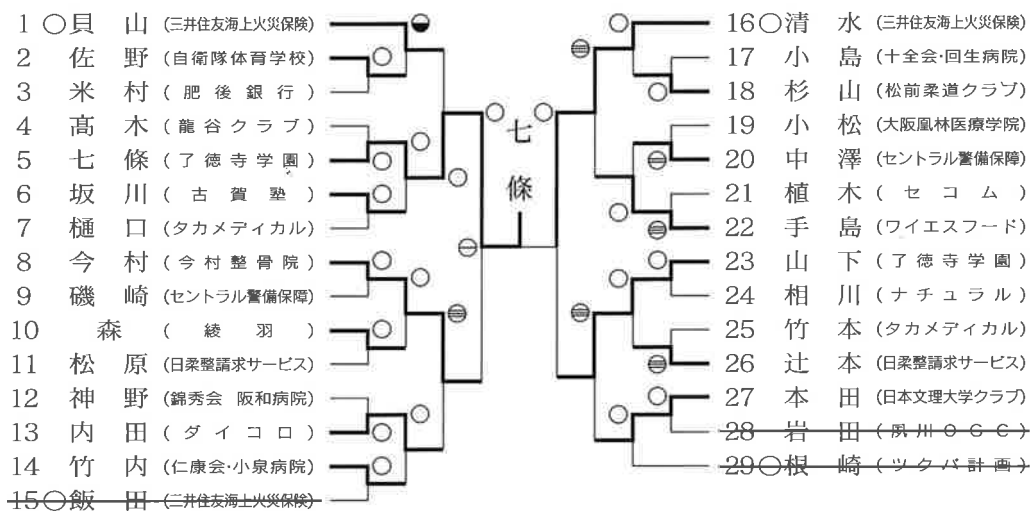
女子78kg超級(9名)



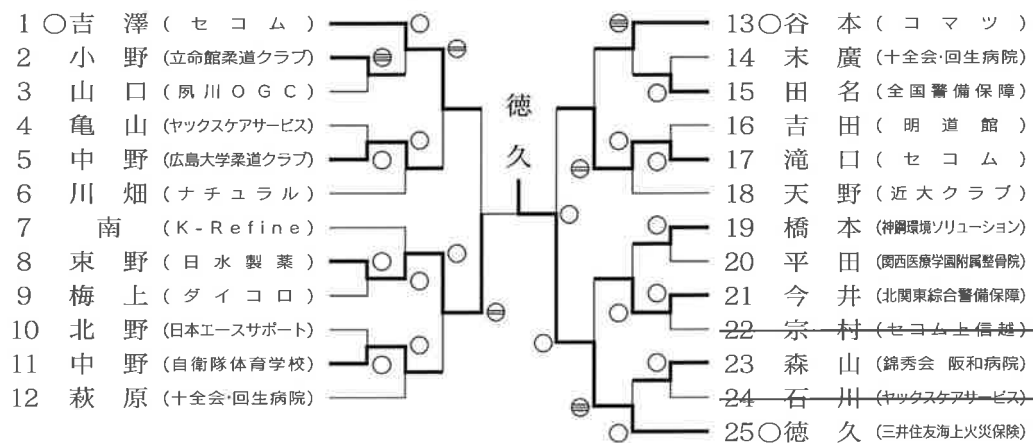
女子78kg級(12名)



女子70kg級(29名)



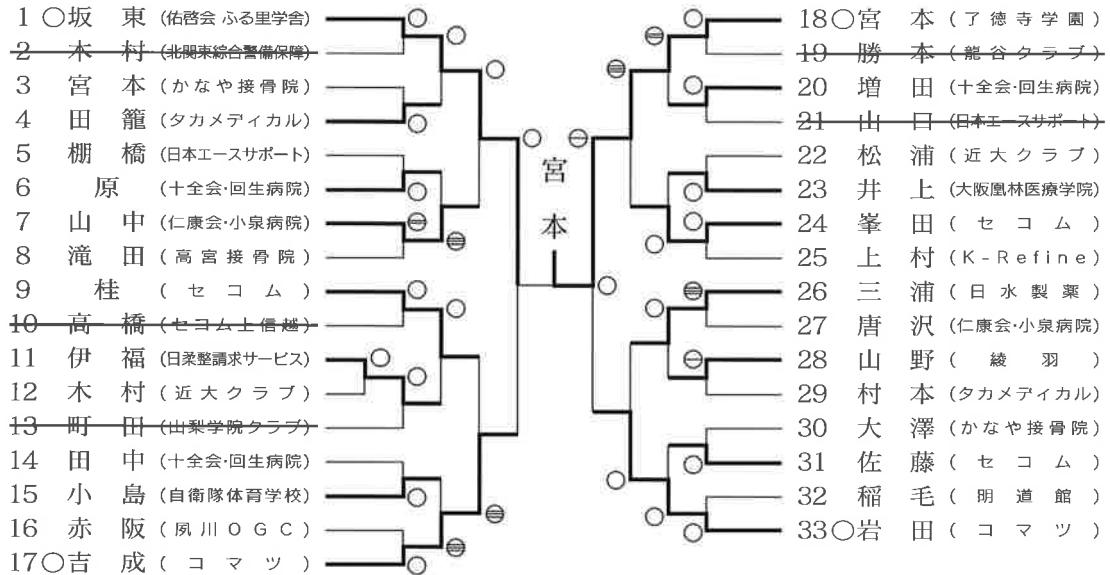
女子63kg級(25名)



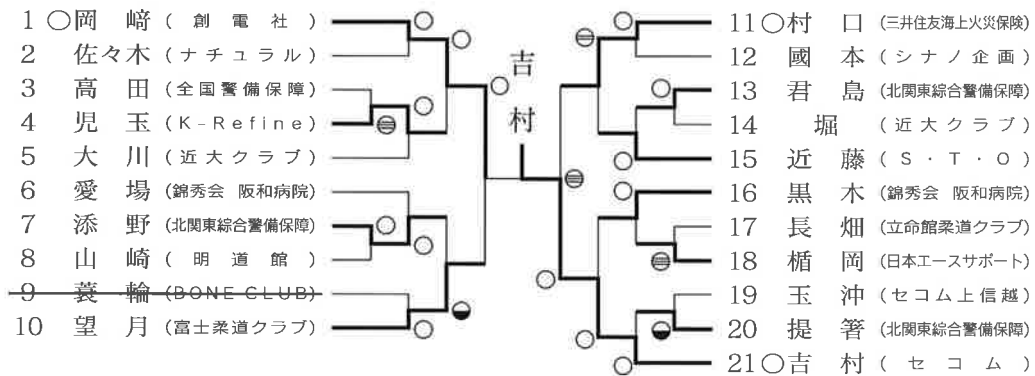
○印はシード選手

成績表

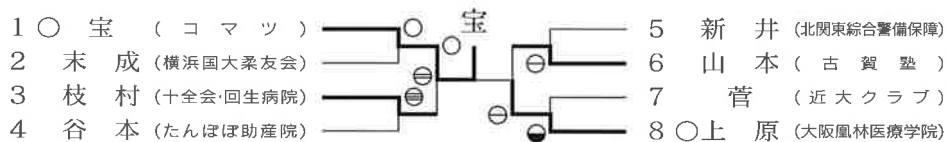
女子57kg級(33名)



女子52kg級(21名)



女子48kg級(8名)



○印はシード選手



63kg級 徳久 横四方固 東野



73kg級 北川 優勢勝 野瀬



48kg級 宝 優勢勝 上原



66kg級 鳥居 優勢勝 中野

熱
戦
風
景
2

2006年カナダ国際柔道大会結果報告
(海外派遣事業)



平成18年度の海外派遣事業として、9月20日から27日の8日間にかけて、カナダ・モントリオールで開催された2006年カナダ国際柔道大会に、団長以下19名の日本選手団を派遣した。

参加国はカナダ、アメリカ、スコットランド、ベルギー、ブラジル、フランス等、計17ヶ国。参加人数は298名（男子176名、女子122名）であった。日本選手団は今回の個人選手権大会の優勝者全員が出場。

〔試合結果〕

階級	選手名	会社名	成績
100kg超級	片渕 慎弥	日本中央競馬会	優勝
100kg級	家泉 崇	旭化成(株)	1回戦敗退
90kg級	矢嶋 雄大	了徳寺学園	2位
81kg級	谷口 徹	旭化成(株)	優勝
73kg級	北川 勝広	アルゼ(株)	5位
66kg級	鳥居 智男	了徳寺学園	3位
60kg級	小川 武志	了徳寺学園	1回戦敗退
78kg超級	馬籠 恵子	ほのぼの会	優勝
78kg級	平岡 麻美	平成国際大学柔道クラブ	3位
70kg級	七條 芳美	了徳寺学園	2位
63kg級	徳久 瞳	三井住友海上火災保険(株)	3回戦敗退
57kg級	宮本 樹理	了徳寺学園	2位
52kg級	吉村 依子	セコム(株)	3位
48kg級	宝 真由美	コマツ	優勝

発行日 2006年10月20日
 発行人 全日本実業柔道連盟
 取材協力 ジャーナリスト 宮澤正幸
 印刷 ダイコ口株式会社